



㊦カレンダーの出来を確認する東北福祉大の学生たち㊦世界の子どもたちが描いた絵を使って製作したカレンダー

東北福祉大生 世界の子どもが描いた絵使用

幸せ願いカレンダー作り

東北福祉大の学生サークルが、戦争や貧困で厳しい状況にある世界の子どもたちが描いた14枚の絵を使い、2025年版のチャリティーカレンダーを製作した。収益を海外の子どもたちの支援に充てる。30日と12月1日、仙台市青葉区の藤崎大町館前で販売する。

収益は海外支援へ

30日・12月1日、仙台で販売

カレンダーのテーマは「あなたにとつての宝物」。14カ国の6〜18歳の子どもたちが、大切な思い出や家族、景色などを描いた。ウクライナの10歳の少年は、漫画に登場する神秘的な森の生き物を明るい色調で表現。シリア出身で内戦のためイラクに避難した10歳の少女は、ペットの鳥と暮らす幸せを絵にした。

国際非政府組織（NGO）のピースウィンズ・ジャパン（PWJ）を通じて集めた絵の中から、フオークデューオ「ゆず」の北川悠仁さんやシンガー・ソングライターのイルカさんが掲載作を選考した。

製作を担ったサークル「ワールドチルドレン芸術祭」の学生6人は4月にテーマを決め、選考者、印刷会社などとのやりとりや、子どもたちのコメントの翻訳などを手がけた。

学生代表で総合マネジメント学部3年の飯島陽斗さん（21）は「平和に学べることに幸せを感じる子どもがいる。現地の子どもたちの力になるよう、カレンダーを手にとってもらいたい」と協力を呼びかける。

同大の学生は2007年からカレンダー作りに関わる。コロナ禍に伴う一時休止を経て22年版から製作を再開した。昨年はスポンサー収入なども含め約157万円の収益があり、海外の子どもの教育支援などに充てた。

カレンダーはA4判で1500部作製し、1部1000円。藤崎前での販売は午前10時〜午後3時。他にPWJのウェブサイトなどで販売する。クリアファイル（1枚400円）、ポストカードとステッカー（各100円）もある。連絡先は芸術祭charity@tfu.ac.jp